

レファレンス通信

ようこそ！



“お調べもの”サポートします



vol. 13



こんな質問がありました

レファレンス事例紹介



質問：

「〇ページから〇ページ」という意味で “PP” と書くのはどうしてか？

回答：

R833『ロングマン 現代英英辞典』で “PP” を調べてみますと(BrE) the written abbreviation of **pages**. とありますので、R833『COLLINS ENGLISH DICTIONARY』も同じように調べてみました。

pp-abbrev for pages (pages の省略形) とありました。

“PP” が page の複数形 pages の省略形ならば、“P” は単数形の “page” の省略形なのではないでしょうか？ 念のために “P” を調べてみます。

p-abbrev for page (pl.PP) (page の省略形、複数形は PP) とあります。

p が1つで page、p が2つで pages となるということですね。

p p 150-153 で150ページから153ページということになります。



質問：

佐伯泰英の小説に出てきた「照降町（テリフリチョウ）」という地名は実在したのか？
今ではどのあたりにあったのか知りたい。

回答：多くの時代小説を発売している佐伯泰英氏の、新しいシリーズに「照降町四季」シリーズというものがあるようです。はじめての女性職人が主人公のようで、面白そうです。

さて、「照降町」ですが、現代の東京の地図を開いてみても、そのような地名は見つかりません。

R910.25『江戸文学地名辞典』を調べてみました。p.325に「照降町」の項目がありました。「江戸橋の北、伊勢町堀に架かる荒布橋から親父橋に至る道筋を、俗に照降町と称した」とあります。正式な地名は「堀江町四丁目」だそうで、傘や履物を売るお店が軒を連ねたことから、こう呼ばれるようになったようです。現代の「中央区日本橋小舟町一丁目・芳町一丁目・小網町一丁目」とあります。

291.3『古地図で歩く江戸・東京歴史探訪ガイド』p.18-19に、該当する地図がありました。堀江町四丁目の通りに「テリフリ」の文字も見えます。江戸時代の地図と、現代の地図を引き比べて参照できるので、街歩きにも使えますね。

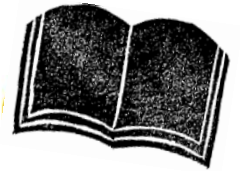
この他にも、町田市立図書館ホームページや国立国会図書館が実施するレファレンス協同データベース事業（通称：レファ協）でもレファレンス事例を紹介しています。ぜひご覧ください。

町田市立図書館ホームページ <https://www.library.city.machida.tokyo.jp/reference/refaerkyo.html>



レファレンスコーナーより

REFERENCE CORNER



新着資料

請求記号	R280.3
タイトル	歴史人物肖像索引 外国篇 古代～19世紀
著者・出版者・出版年	日外アソシエーツ株式会社編集・日外アソシエーツ・2021年
概要	古代～19世紀にかけての歴史上の人物の「肖像」が掲載されている資料を探すことができます。例えば、中国禅宗の開祖とされる「達磨（ダルマ）」の項目は約5ページにわたる資料が紹介されています。「肖像を見たい」という時に役立ちます。

請求記号	R291.03
タイトル	国絵図読解事典
著者・出版者・出版年	小野寺淳編・創元社・2021年
概要	江戸時代に作られた多数の「国絵図」が紹介されています。本書は2部構成になっており、「総論篇」では作成過程や関連文書を織り交ぜて研究者が解説し、「各論篇」では国絵図の表現上の特徴に焦点をあてて解説され、「読み解き」を楽しめる事典となっています。巻末には「国絵図・古地図関連サイト一覧」が掲載されており、調べものにも役立ちます(貸出可です)。



お役立ちサイト



サイト名	ディープ・ライブラリープロジェクト
URL	https://dlib.jp/
概要	専門図書館の横断検索ができます。例えば、古い専門的な雑誌等の所蔵を探す時に役立ちます。その他「美術図書館横断検索」(https://alc.opac.jp/search/)というサイトもあります。

どうやって調べたらいいかわからない。そんな時は、レファレンスカウンターへ。
資料探し、調べもののお手伝いをいたします。ご利用をお待ちしています！

町田市立中央図書館 レファレンス担当 2022.2